

国語科 学習指導案

令和元年10月1日（火曜）第2校時（9:35~10:20）

授業場所

小学校 5年組 指導者

【授業の視点】

構成メモをもとに下書きをする場面において、初めにモデル文を使って全体で交流し、「他者」と向き合う対話的な場面を設定することによって、説得力ある表現に気づき、自分の伝えたい文章に生かして書くことができるであろう。

＜目指す言語能力＞

○事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。（B「書くこと」 指導事項 ウ）

1 単元 考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう

（教材名 明日をつくるわたしたち）

2 単元（題材）設定の理由

（1）教材観

○単元設定の価値

本単元は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容〔A話すこと・聞くこと〕〔B書くこと〕の複合単元である。

〔B書くこと〕では、（1）ア「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」イ「自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。」ウ（本時）カ「書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。」に関連して設定されたものである。その中で、本単元では「記述」についての（ウ）に重点を置いて指導する。児童は「提案書」の形式を経験することを通して、事実と意見の区別、簡潔な結論、詳細な解決策など、目的に応じて書き分ける力を養うことができるであろう。これは、高学年として身につけさせたい「目的や意図に応じ」読み手にも良く理解できるように文章を構成する能力を身につけることができる内容となっている。

単元名「明日をつくるわたしたち」には、自分たちが生活している社会の構成員としての自覚を促す響きがある。児童は5年生となり、学級や委員会、クラブと様々な集団の中で、一人一人が役割を担い活動を始めている。活躍の場が増え、高学年としての意識が高まってきているこの時期なりの、社会に対する関心を高め、視野を広げたい。しかし、現実の生活とかけ離れている内容では提案の成果が得られにくい。自分たちが提案し、少しでも改善に向かっていく達成感を味わえるよう、提案の対象をそれぞれの家庭とし、現状を把握したうえで、具体的に実践できる提案ができるようにしていく。

また、提案を通すためには、読み手を納得させる内容や書きぶりが必要である。書く能力については個人差も大きいため、友達との交流を通し、推敲や修正をしていく力も育てたい。これは、本校の目指す児童像「ともに学び、考えを深めることができる子」・高学年の目指す姿〔友だちの考えと自分の考えを比較検討し、課題や目的に応じたよい方法や考えを創造できる子〕にも迫るものである。話し合っただけで結論を出す、説得力をもった文章を書くという活動は国語科のみならず、あらゆる生活場面で行われ、社会全般にとって大事なことである。本教材はこれから成長し、やがては社会に出て行く児童にとって意義のある学習だと考える。

○系統性

児童は、これまで「書くこと」については、第2学年「かんさつ名人になろう」第3学年「気になる記号」「ことわざについて調べよう」第4学年「わたしの研究レポート」と、調べて得た情報を基に「報告する」文章を書く学習をしてきている。特に、中学年では「相手や目的に応じ」ることを意識し、必要に応じて理由や事例を挙げて書くことを学んできた。

5年生では1学期の教材「次への一歩—活動報告書」で、効果的に書くための構成についてや、実行（報告）と考察について分けて書くために、文末表現に注意することを学んできた。また、グループで分担して報告書を仕上げるために、つながりのある文章にするための推敲や修正も経験している。

話し合っただけで深めた考えをもとに、自分の考えを明確に、説得力をもつ文章を書く能力は、今後第6学年「未来がよりよくあるために」において、構成を工夫して、自分の意見を明確に伝える「意見文」を書く力へとつながっていく。

(2) 児童の実態 (男子 人 女子 人 計 人)
(関心・意欲・態度)

(書くこと)

(言語についての知識・理解・技能)

3 目 標

自分たちの身のまわりにある問題について調べ、解決のための説得力のある提案書を書くことができる。

4 評価規準

観点	おおむね満足できる状況
関心・意欲・態度	○問題について調べ、解決のための提案書を書こうとしている。 ○自分の提案書をよりわかりやすくしようとしている。
書くこと	ア) いくつかのことを比較したり関係付けたりしながら書くことを決め、情報を集めて、文章の構成や記述に役立つように整理している。 イ) 提案書の構成を明確にして、書いている。 ウ) 事実と感想、意見を区別して、目的や意図に応じて提案書を書いている。 カ) 書いたものを読み合い、よりよくなるように推敲している。
言語についての知識・理解・技能	言葉から受ける感じや、言葉の使い方について関心をもち、説得力が増すように表現を工夫している。 【言語イ (カ)】

5 指導と評価の計画（全15時間：本時は第10時）

過程	時間	学習活動 めあて	学習への支援	☆ふり返り 【意識】 A	評価項目 【観点】(方法)
つかむ	1	<p>○自分たちの周りの問題について、解決のための提案書を書く学習についての見通しをもつ。</p> <p>地球の環境を守るため、家庭でできることを考え、家族が「なるほど」と思える提案書を書こう。</p> <p>学習の流れを確認して、どのように提案していくか、見通しをもとう。</p>	<p>○環境問題にテーマをしぼって学習を進めるため、児童が関心を持ちやすい動物植物の画像を提示する。</p> <p>○教科書の「提案書」を拡大して示し、「活動報告書」と比較することで、大まかな構成を捉えさせる。</p> <p>○「学習計画」を示して報告書作成時の学習を想起し、提案書を書き上げるまでの大体の流れをつかみ、見通しをもたせる。</p>	<p>☆提案をしていくまでの順番が分かった。友達とよく協議をして、テーマが決まったら、家族に分かりやすい提案書を書いていきたい。</p>	<p>地球の環境問題について、解決のための提案書を書く学習に意欲をもっている。</p> <p>【関】 (ノート・発言)</p>
	2	<p>○自分が取り上げたい問題について情報を集める。</p> <p>身のまわりの環境問題について、情報を集めよう。</p>	<p>○様々な環境問題についての予備知識となるよう、朝読書の時間も使って図書資料にあたらせる。</p> <p>○水、空気、その他と大きく区切ったプリントを使用し、調べたことを記入する。</p>	<p>☆環境の悪化して人間や動物の命が危険なことを知り驚いた。もっと詳しく調べて、問題を知りたい。</p>	<p>身近な環境問題に関心を持ち、複数の資料にあたって情報を集めている。</p> <p>【書ア】(ノートワークシート1)</p>
	3	<p>○提案したい問題について、自分の考えをまとめる。</p> <p>自分が提案したいテーマについての考えをまとめよう。</p>	<p>○いくつか調べた中から、「自分たちに解決できそうな問題か」考え、提案する問題をしぼらせる。</p> <p>○選んだ問題について考えがまとまらない児童には、プリントの項目ごとに教師が尋ね、児童の考えを引き出していく。</p>	<p>☆環境についての現状や問題などが困っていることがなかった。協議の時にグループの人に分かりやすく話したい。</p>	<p>集めた情報を整理し、自分の考えをまとめている。</p> <p>【書ア】 (ワークシート1②・ノート)</p>
① 追究する	4	<p>○協議の仕方を知る。</p> <p>よりよい協議の仕方を知り、練習しよう。</p>	<p>○協議の手順がわかるように、進め方カードを示すとともにモデルとなるCDを聞き、役割に基づいた発言の仕方をつかませる。</p> <p>○立場や意図を明確にして発言したり、意見が対立した場合の進め方を知ったりするために、実際に題を与えて班で話し合いをさせる。</p>	<p>☆自分の考えや賛成、反対の立場をはっきりさせて、意見と理由を言うことができた。これからも、グループで協力して話し合いをしていきたい。</p>	<p>役割に基づいて立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合うことができる。</p> <p>【話・聞 オ】 (話し合い・ノート)</p>
	5	<p>○グループとして提案するテーマについて協議をする。</p> <p>自分の考えと比べながら話を聞き、意見を出し合って、提案するテーマを決めよう。</p>	<p>○協議は「一つにまとめる」ことをおさえ、多数決ではなく、決められた時間内に意見を出し合ってまとめるよう確認をする。</p> <p>○聞き手として、自分の考えと比べながら、話題に沿って考えが深まるよう、ワークシートにメモをしながら話し合わせる。</p>	<p>☆友達の話をも自分の調べたことと比べながら聞いて、意見を言ったり、質問をしたりできた。グループで決まったテーマについて、これから調べていきたい。</p>	<p>収集した知識や情報を関連づけて聞き、立場や意図を明確にしながに計画的に協議している。</p> <p>【話・聞 ア・オ】(話し合い・ワークシート2)</p>
	6	<p>○提案書の書き方を確認する。</p> <p>提案書の構成を知ろう。</p>	<p>○教科書のモデルを分析して、提案書の構成や文章の特徴を確認させる。</p> <p>○提案には、家庭で実践できることをズバリと書くことを強調し、目的をつかませる。</p>	<p>☆提案のきっかけには、事実と問題点の「現状」自分の「考え」を書くことがわかった。グループでよく話し合いをしたい。</p>	<p>解決のための提案書の構成がわかり、学習に意欲をもっている。</p> <p>【関】【書イ】 (ノート・発言)</p>
	7	<p>○決まったテーマについて練り直し、提案書に書く内容を整理する。</p> <p>テーマについて問題や原因など情報を集めよう。</p>	<p>○新しい情報を収集するために、インターネットを使うときの注意点を確認する。</p> <p>○「事実」として、それぞれの家庭で実践していることを調べさせる。</p>	<p>☆インターネットで調べたら、新しい情報や具体的なことが分かって便利だった。著作権等にも気をつけて使っていきたい。</p>	<p>テーマについて情報を集め、話題を練り直して課題意識を明確にしている。</p> <p>【話・聞 ア】 (話し合い・ノート)</p>

	8	「プロジェクト会議」を開いてテーマの問題や解決策をまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれ自分の考えを付箋に記入しておき、班用構成メモをもとに話し合う。 ○解決策として友達の家での実践などの情報を取り入れてよいことも伝える。 ○グループでの練り合いを「プロジェクト会議」とし、協力して提案書を構成していく意欲を高めさせる。 ○会議は授業以外にも必要に応じてリーダー中心に開くよう声をかける。 	☆友達と原因を話し合って、解決するための提案が決まってきた。自分の家で実践していることと比べて、家族が「なるほど」と思える提案書にしたい。	テーマについて収集した知識や情報を関係付け、課題意識を明確にしている。 【話・聞 アオ】 (話し合い・ノート・家庭での調べプリント)
	9	構成メモを整理しよう。	○班用構成メモをもとに自分の構成メモを作成し、色鉛筆で「現状」「問題」「考え」を区別させる。	☆自分の家にあった提案の内容が整理できた。家族が分かりやすく「なるほど」と思う文章にした。	収集した知識や情報を関係付け、課題意識を明確にしている。 【書 ア】 (構成メモ)
追究する②	10	○構成メモをもとに、提案書の下書きをする。 家の人が「なるほど」と思う提案書にするための「きっかけ」の部分を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に「なるほど」と思うモデル文を示し、説得力のある表現にはどんな工夫があるか全体で意見交流する。 ○書くことが苦手な児童には、書き始めを示した補助プリントを用意し、スムーズに書けるようにする。 	☆文末に気をつけて、原因や考えもすっきりと書けた。「なるほど」と思ってもらうために、自分の考えをしっかりと書いていきたい。	事実と感想、意見をかき分けて書いている。 【書 ウ】 (下書きプリント)
	11	家の人に「わかった」と思ってもらえる、「提案」を書こう。	○個人で取り組み、友達と交流した後、全体での確認をし、学習内容をおさえ、今後に生かせるようにする。	☆家の人が実践できるような具体的な提案が書けた。	構成や表現を見直し、説得力が増すように工夫している。 【言イ (カ)】
	12	○提案書の下書きを読み合い、推敲、修正する。 家族にわかりやすい提案になっているか、友達と読み合って、下書きを見直そう。	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習で気づいた表現の工夫を生かし、書き直しや追加をさせる。 ○グループでの推敲ではチェックシートを活用し、誤字脱字のみでなく、文の長さ等も確認することで基本の文章表記や表現力を高めさせる。 	☆友達にアドバイスをしてもらってつなぎ言葉を書き直したら、分かりやすい文になった。ほかの友達の提案書も読んでみたい。	書いたものを読み合い、より良くなるように推敲している 【書 カ】 (下書きプリント) 自分の提案書をわかりやすくしようとしている。 【関】
	13	○修正した提案書の清書をする。 ていねいな文字で清書しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○間違えのないよう、気をつけて清書し、書き上がったら再度声に出して読み返し、確認させる。 ○下書きと比べてどう変わったか、ノートにまとめさせる。 	☆初めて読む家族にも伝わるように直して清書ができた。早く家族に読んでもらいたい。	自分の提案書をより、読みやすくしようとしている。 【関】
	14	○友達の提案書を読み合い、感想を伝え合う。 友達の提案書を読んで、「なるほど」と思ったところを見つけて伝え合おう。	<ul style="list-style-type: none"> ○表現や記述の面、考えや内容の面から読み、工夫や良さに気づかせる。 ○良さを伝え合うことで、自分の良い点や課題を再確認させる。 ○作品を家族にも読んでもらい、感想をもらう。 	☆友達の提案書を読んで、納得するところがたくさんあった。事実や原因、考えがはっきりしていたからだと思う。自分も実践したい。	説得力の増す表現の工夫に気づいている。 【言イ (カ)】
まとめる	15	○単元の学習をふり返る。 協議するとき、提案書を書くときに気をつけたことをまとめ、これから生かせることを考えよう。よう。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画やこれまでの「ふり返り」の記述を読み返したりして、単元で学んだことを確認し、何ができたようになったか、学習前後の変容を自覚させる。 ○学んだことが、今後、どの場面で生かせるか考えさせ、全体で確認し合い、共有する。 	☆発表するときは自分立場を明確にして意見を先に述べた。これから意見が対立しても、しっかり相手の理由を聞いて受け入れるようにしたい。	協議のしかたや提案のしかたを、他の場で生かす意欲を持っている。 【関】 (ノート・発言)

		○家族からもらった感想を紹介する。自分たちが提案したことが少しでも効果を生み、地球のためになっていく実感を持たせ、学習の喜びや達成感を味わわせる。	☆総合で采女地区のことを調べ始めた。「提案」というかたちでまとめられるかもしれない。
--	--	---------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------

6 指導方針

第一次〈つかむ過程〉

- 「協議をする」「目的に応じて書く」という目的のため、テーマを『環境問題』にしぼった。そうすることで、豊富にある校内の図書資料やインターネットが使用しやすくなる。さらに、提案する対象をそれぞれの家庭（保護者）に設定した。具体的に現状が把握しやすいことと提案内容の実践がしやすく、効果を実感できると思われる。
- 児童が学習に見通しを持ち、ゴールの姿がイメージできるよう、『学習計画』を示すとともに、教科書のモデルと前年度の児童が作成した「提案書」のモデルも示す。

第二次〈追究する過程〉

- 問題を解決していく方法を提案するので、「自分たちに解決できそうな問題か」という点をおさえるとともに、実際に各家庭で取り組んでいる「事実」も調べ、新たな提案ができるように考えさせる。
- 問題解決における情報活用として、インターネットや図書資料を使用する際には、情報モラルやセキュリティにも配慮し、指導する。
- 教科書はグループで内容を分担して書く計画になっているが、提案書は個人で作成する。書くことの苦手な児童もいるため、事前のグループやペアでの話し合い、意見交流で考えを練り、課題意識を明確にさせる。
- 毎時間『学習計画』を確認し、「今日はここを学ぶ」と意識して授業にのぞめるようにする。その中で本時の「めあて」が生まれ、児童の言葉で示せるようにしていく。また、授業の終末では「今日はここまでできた。これが分かった」と意識して振り返ることで、目標達成に向けて、追求意欲がつながるようにしていく。
- 書くことが苦手な児童には、モデルを示すだけでなく、補助プリントを用意して書き始めを示すことでスムーズに書き進められるようにする。

第三次〈まとめる過程〉

- 「どう学び、何ができるようになったか」を板書でまとめ、学級全体で共有させることで学びを一般化していく。この学習が今後どう生かされるかを考えさせ、既習事項として活用できるようにする。総合学習で取り組んでいる「采女地区のことを知ろう」の学習に生かしたい。

学習形態その他

- 学級内では個人および男女の能力差が大きいので、グループ編成には配慮をし、書く能力の比較的高くリーダーとなれる児童を配置していく。
- まずは一人一人が違う情報を収集する個の学びからスタートする。「環境」という大きな課題に適度な難易度を持たせることで、協議や話し合いをして一人では思いつかない解決策を得たり、他者の思いを知る良さや必要性を高める。
- 最終的には個に戻すことで、一人一人の思いや願いを表現する工夫と機会を保障する。能力の高い児童を生かすとともに、表現物での評価もしやすくする。
- 授業の一時間一時間を「つなぐ」ため、個の追究の時間として、授業時間以外の家庭への宿題や休み時間等も使って補っていく。さらに、清書後は家庭へ持ち帰って家族に読んでもらい、実践に協力してもらう。

7 本時の学習

(1) ねらい

「なるほど」と思う提案書を書くためには事実と自分の考えを区別して書いたり、表現を工夫したりするとよいことに気づき、下書きをすることができる。

(2) 準備

教師：教科書・児童モデル文（拡大）補助プリント 児童：構成メモ

(3) 展開

	学習活動	支援及び留意点	時間	観点評価項目 (方法)
つかむ	1 学習課題の確認をする。	○「学習計画」から、本時の学習の位置づけを確認し、内容の見通しを持たせて、何を学ぶか捉えさせる。 【めあて】 家の人「なるほど」と思う提案書にするために、「きっかけ」の部分を書こう。	3分	
		○本時の流れ「個人→グループ」を示し時間配分を知らせる。		
追究する	2 説得力のある表現の工夫を探る。	○児童のモデル文から「なるほど」と思える表現の工夫を出し合い、既習事項と合わせ、自分の文章に生かしていけるようにする。 ・事実だけでなく「考え」がしっかり書けている。 ・数字やデータなど具体的なものは説得力がでる。 ・「しかし」「ちがいない」等のつなぎ言葉や文末で強調している。等 ○モデル文に青ペンでラインを引く程度にし、板書等の時間をとらない。	8分	
	3 構成メモをもとに、「1きっかけ」の下書きをする。	○構成メモを基に文章にしていく。なかなか書き始められない児童には、補助プリントを用意し、スムーズに取りかかれるよう支援をする。 ○早く仕上がった児童は教室後方のコーナーに移動し、お互いの文章を読み合う。	12分	事実と感想、意見を区別して書き分けている。 【書ウ】 (下書きプリント)
<p>A段階の児童の姿と支援：問題となる現状から自分の考えへと、事実と意見を書き分けるとともに、自分の考える理由についても説得力のある表現を工夫して書いている。→賞賛のうえ、友達との交流によってさらに良い表現に気づいたり、友達にアドバイスをしたりさせる。</p> <p>B段階の児童の姿と支援：問題となる現状から自分の考えへと、事実と意見を書き分けている。→A段階の友達の文を参考にして、さらによく工夫を考えさせる。</p> <p>C段階の児童の姿と支援：問題となる現状から、自分の考えへとつながりよく書くことができない。→つなぎ言葉や文末表現に着目させる補助プリントを用いたり、友達にアドバイスをもらったりして文章にさせる。</p>				
	4 友達と交流し、表現の良さを見つける。	○グループで提案書を読み合い、「なるほど」と思えた説得力ある表現を見つけさせる。その際、良い表現には青鉛筆で線を引き☆マークをつけさせることで、今後下書きを修正していくときの赤鉛筆と区別させる。具体的なアドバイスは口頭で行い、修正があれば余白を使わせる。 ○アドバイスはどのように書き換えれば良いか、具体的に話せるようにし、相手に助言することによって、自分の考えも深められるようにする。	10分	

	5 全体で「なるほど」思う提案書の工夫を出し合う。	○友達の提案書で「なるほど」と感じた部分を推薦し合い、家の人に納得してもらうための表現の工夫を出し合い、次の「提案」で生かせることを確認する。	5分	
まとめと振り返り	6 本時の振り返りをし、次時の学習の確認をする。	○本時の「めあて」を確認し、学んだことや次時への意欲をまとめさせる。 ○机間巡視でよく書けている児童に「振り返り」を発表させ、全体で本時の学習の成果を称賛する。 ○「学習計画」で自己評価をすると同時に、次時の学習についても確認させ、単元のゴールに近づいていることに気づかせる。	7分	モデル文や友達の文章を参考に、さらにわかりやすい提案書を書こうとしている。 【関】 (ノート振り返り)

③ その他（ごみ問題・分別・リサイクルなど）

2 関心のあるテーマで、よりよくしたいことについてまとめましょう。

テーマ：

理由：

現状（問題点）：

提案（考えたこと・解決策）

明日をつくるわたしたち

名前

めあて		考えをもちより、班で協議をして班の提案を決めよう。		
名前	友達の考え	理由と問題点	自分の考えと比べて気づいたこと	○△

まとめ

班の提案は

です。

テーマ(提案内容を簡潔に) 例) ~しよう

1・提案するきっかけ(箇条書きにスッキリ！)

①事実

②問題

③提案【考え】

2・提案(解決方法)※具体的に一つか二つまとめよう

- ----- こと
- -----

やりかた

3・提案の効果 * 具体的に！これが解決したら、こんな良いこと があると思うこと

ふりかえり -----

下書き

Blank box for writing.

名前

1・提案するきっかけ

わたしの家では

事実



問題

しかし、



考え

そのために

2・提案

Blank box for writing the proposal.

具体的なやり方

どうだろうか。

3・提案の効果

この実践ができれば、

だろう。